

プロゼミナールの目次

井 上 ……	1	海 野 ……	2	加 藤 ……	3	塩 谷 ……	5
向 ……	6	朴(恩) ……	7	福 村 ……	8	藤 村 ……	9
二ツ山 ……	10	古 川 ……	11	松 岡 ……	13	宮 脇 ……	14
森 貞 ……	15	山 口 ……	16	山ノ内 ……	17		

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323547) プロゼミナール (井上善) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門 会計学総論	
	履修推奨科目	簿記入門 会計学総論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 財務会計の基本的な概念と方法論について学ぶ。財務諸表から企業内容を読み取る力を養う。			
授業の目的 財務会計の基本的な概念と方法論について学ぶ。財務諸表から企業内容を読み取る力を養う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務会計の基本的な概念と方法論について理解することができる。財務諸表から企業内容を読み取ることができる。			
成績評価の方法と基準 レポート(中間・期末の2回、各50%)による。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>第1回 会計とは、会計学とは</p> <p>第2回 会計の諸領域</p> <p>第3回 会計公準</p> <p>第4回 会計原則</p> <p>第5回 貸借対照表の意義と構造(1)</p> <p>第6回 貸借対照表の意義と構造(2)</p> <p>第7回 損益計算書の意義と構造(1)</p> <p>第8回 損益計算書の意義と構造(2)</p> <p>第9回 収益・費用の認識と測定(1)</p> <p>第10回 収益・費用の認識と測定(2)</p> <p>第11回 資産の意義と評価(1)</p> <p>第12回 資産の意義と評価(2)</p> <p>第13回 負債会計(1)</p> <p>第14回 負債会計(2)</p> <p>第15回 純資産会計</p>			
<p>授業の進捗度合により上記計画を変更することがある。毎回プリントを配布する。授業の連続性が高いため復習が重要となる。</p>			
教科書・参考書等 初回の授業までに指示する。			
オフィスアワー 授業終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席すること。なお、本講義は対面授業として実施される。			

ナンバリングコード B4ECN-bacE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313526) プロゼミナール (海野) Pre-Seminar プロゼミナール	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目 策	マクロ経済学I・II、金融論、財政学、経済政策	
	履修推奨科目	マクロ経済学I・II、金融論、財政学、経済政策、統計学、計量経済学	
学習時間 講義90分×15回			
授業の概要 この講義では、日本経済新聞で扱われた記事を経済学や経営学の視点で学習します。 日本経済新聞の記事は、経済学や経営学の視点で記事が執筆されています。学生の皆さんがこれまで学んできた経済学・経営学を振り返ることもできますし、これから学ぶための興味を持つこともできます。			
授業の目的 * 日本経済の変化の歴史を学習し、現在の日本経済に興味をもち、理解する * 経済データの定義、性質などを理解する * データを用いて、その変化の背後にある要因を見出し、論理を構築する			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
* 「高度成長」、「バブル」、「バブル崩壊」等の時代の総称を説明できるようになる * 経済データの定義、性質を説明できるようになる * 論拠を示し、参加者に論理的に説明できるようになる			
成績評価の方法と基準 * 演習時間中の発言25%、プレゼン・討論等のパフォーマンス25%、課題25%、期末レポート25% * やむ得ない場合を申告しない限り、遅刻・欠席は減点です			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】 授業は受講生による講義担当者による簡単な講義、学生による報告、質疑応答、討論を中心とするゼミ形式で行われます。受講生には出席だけでなく、毎回の事前準備と授業中の積極的な発言が求められます。 第1回 ガイダンス1 (自己紹介など) 第2回 ガイダンス2 (報告の作法・ハンドアウトの作成方法など) 第3回 日本経済新聞の読み方 第4～13回 日経記事紹介 (全員制) 第14、15回 個別報告 報告の際は、他の受講生の質問に (できるだけ) 答えられるよう、内容を理解していることが求められます。報告の準備の際、少しでも疑問のある箇所が出てきたならば、それらは事前にきちんと調べて解決しておきましょう。			
教科書・参考書等 講義内で指示を出します			
オフィスアワー 火曜日昼休みを設定していますが、それ以外を希望する場合は、連絡を入れて予約を取ること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 積極的な発言を歓迎します。 自身の報告担当回には、自費で1日分の日本経済新聞を購入してもらうことになる可能性があります。			

ナンバリングコード B4ECN-bcdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313522) プロゼミナール (加藤) Pre-Seminar 日本の福祉国家システムの基本構造とその課題	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論、財政学、社会政策、経済政策	
	履修推奨科目	福祉経済論、財政学、社会政策、経済政策	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 現代社会において政府が果たす役割は大きなものとなっており、人々の生活の様々な部分に関わっています。日本は第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度を構築・拡充するとともに、国の財政を通じた地域間再分配政策も強化して、日本型の福祉国家システムを形成してきました。 しかし20世紀末以降、急速な少子高齢化によって年金や医療・介護、子育て支援等へのニーズが高まる一方で、人口減少やグローバルな国際競争の激化によって日本経済の活力は弱まり、国や地方の財政状況も悪化しています。このような中、20世紀後半に構築された様々なシステムの再編が避けがたくなっています。 社会保障をはじめとして、政府の政策を実施するには、それを裏打ちする財源や資源が必要であり、その負担を国民間でどのように分担するかは常に大きな論点となってきました。しかし日本の現状は、必要な財源を租税や社会保険料だけでは賄いきれず、毎年、巨額の財政赤字を発生して、将来に返済しなければならない政府債務を累積させています。 本演習では、このような日本の現状を念頭に置きながら、日本の福祉国家システムについてその基本構造と特徴を学び、その課題について考えていきます。			
授業の目的 少子高齢化・人口減少が進行する中で、年金・医療・子育て支援などの政策の重要性は増しており、20世紀後半に構築されたシステムを21世紀の経済社会環境に適したものと改変していくことが求められています。 本演習では、第1に、このような社会的課題を理解し、多角的に検討するために必要な知識の習得と、論理的思考力の向上を目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。第2に、専門的な文献や資料を読み、報告やレポートとしてまとめる力を身につけます(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。第3に、報告・議論を通じて、他者の発言・意見を理解する力、報告内容や自分の意見を他者に的確に伝える力、コミュニケーション能力の向上を目指します(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 日本の経済社会の構造変化について、統計データ等を用いて検討し、説明できる。 (2) 日本の各種社会保障制度の構造・変遷を理解し、それらを説明できる。 (3) 日本の各種社会保障制度の課題を理解し、その主な論点と自分の見解を説明できる。 (4) テキスト等の内容をレジュメにまとめ、他者に的確に伝えることができる。 (5) 他者の報告・発言の内容をきちんと理解し、それに対して質問や自らの意見を述べるができる。 (6) 参考文献や資料を読み、レポートとしてまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 (1) 出席・発言・参加姿勢50%、報告・宿題・レポート50% (2) 無断欠席に関しては、単位を認定しない可能性があります。 (3) 出席だけしていても、授業への参加意欲がない場合は評価しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 ・授業は、ゼミ生の報告とディスカッションを中心に進めます。必要に応じて、講義や実習等を行います。 ・報告担当者は報告レジュメを準備し、わからない言葉等は事前に調べてください。 ・報告者以外の受講者も、事前にテキストや資料に目を通し、授業時に質問・コメントができるように準備してください。 ・授業形態は基本遠隔方式で行う予定です。状況によっては、一部の授業を対面方式に変更する可能性もあります。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス(自己紹介、テキスト報告の担当者決定など) 第2回：予備知識の学習 第3-11回：テキスト報告・ディスカッション 第12-15回：グループワーク			

【自学自習について】

- ・ 毎回、予習としてテキストや資料を熟読し、授業後には授業内容を整理して、テキスト等を再度熟読する。(25時間)
- ・ 第3～11回 報告担当者は報告レジュメを作成し、言葉の意味なども事前に調べて準備をする。報告担当者以外の受講生は、テキストを予習し、議論の準備をする。(15時間)
- ・ 第12～15回 テキスト報告を通じて勉強した内容を踏まえながら、各自が期末レポートを作成する。それぞれの期末レポートのテーマや内容について、グループワーク形式での意見交換やディスカッションなどを行い、そこで得たヒントを活かしてレポートを完成させる。(20時間)

教科書・参考書等

※第1回目の授業時に指示します。

渋谷博史著、『21世紀日本の福祉国家財政』、学文社、2012年。

渋谷博史著、『改訂版 福祉国家と地域と高齢化』、2014年。

内閣府『高齢社会白書』各年版

内閣府『少子化社会対策白書』各年版

オフィスアワー 水12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ 普段より、新聞やニュースをみることを推奨します。
- ・ 授業時間は成果報告を行うための時間です。準備作業は、授業時間の開始までに済ませてください。
- ・ 授業時間外に課外活動を行う可能性があります。それらもゼミ活動の一環であるため、必ず参加してください。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323567) プロゼミナール (塩谷) Pre-Seminar 商品企画	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 塩谷 剛	関連授業科目	経営戦略論、イノベーション論	
	履修推奨科目	経営戦略論、イノベーション論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 本講義では、商品企画の方法を学んでいく。まず、西川・廣田編(2012)『1からの商品企画』碩学舎を輪読し、商品企画の事例や方法について学んでいく。次にそれらの方法を用いた演習を行う。最後に、商品企画書を作成し、プレゼンテーションを実施してもらう。			
授業の目的 本講義の目的は、商品企画の方法を使いこなせるようになることである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品企画とは何か説明できる。 ②商品企画の方法を使いこなせる。			
成績評価の方法と基準 ○平常点(事前課題小レポート＋グループワーク) 55% ○教科書の内容報告15% ○商品企画のプレゼンテーション10% ○最終レポート(商品企画書) 20% ※教科書の内容報告および最終レポートの提出がない場合、成績は「不可」となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス この科目は全回対面授業を行う。 なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。			
第1回：商品企画のプロセス(教科書第1章) 第2回：インタビュー法(教科書第2章) 第3回：観察法(教科書第3章) 第4回：リード・ユーザー法(教科書第4章) 第5回：アイデア創出(教科書第5章) 第6回：コンセプト開発(教科書第6章) 第7回：プロトタイプング(教科書第7章) 第8回：市場規模の確認(教科書第8章) 第9回：競合・技術の確認(教科書第9章) 第10回：顧客ニーズの確認(教科書第10章) 第11回：販促提案(教科書第11章) 第12回：価格提案(教科書第12章) 第13回：チャネル提案(教科書第13章) 第14回：企画書作成・プレゼンテーションの技法(教科書第14・15章) 第15回：商品企画プレゼンテーション(1人3～5分)			
<予習> 教科書の該当箇所を読み、事前課題小レポートを作成する。 報告担当者はパワーポイント資料を作成すること。 <講義中> ①受講生によるレクチャー、質疑応答、講師による補足 ②グループワーク： グループで事前課題小レポートを共有し、グループとしての結論をまとめ、発表する。 <復習> 教科書の該当箇所をもう一度読むこと。 講義で学んだ手法を繰り返し使ってみること。			
教科書・参考書等 教科書：西川英彦・廣田章光編(2012)『1からの商品企画』碩学舎			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義では、毎週の事前課題小レポート作成をこなすだけでなく、プレゼンテーションやグループワークへの積極的な取り組みが求められます。てっとり早く単位を取得したいと考えている方には不向きな授業ですのでご注意ください。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323560) プロゼミナール (向) Pre-Seminar Professional Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論、人的資源管理論	
	履修推奨科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論、人的資源管理論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習22時間)			
授業の概要 このプロゼミナールは、受講生の主体性を重視した形で運営していきたい。受講生は今まで学んだ経営学の基礎知識を用いて、企業や産業の動向を考察し理解する。また自らの問題関心に沿って、主体的に学習・研究を行う。			
授業の目的 企業・産業に関わるテーマの調査・研究や、レポートの執筆、発表&議論などを通じて、受講生に経営学の面白さと知的刺激を味わってもらいながら、皆さんの問題発見・問題解決能力、論理的思考力、文章表現能力および口頭発表能力を育成していきたい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・企業や産業の動向に対する感受性と理解力が高まる (学士課程のDP「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・自らの問題関心に沿って、企業や産業の動向を分析することができる (学士課程のDP「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)。 ・経営学の知識や理論を用いながら、企業・産業分析のレジュメないしレポートを書いたり、口頭で説明・発表したり、他人と討論したりすることができる (学士課程のDP「倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 グループ研究の内容が60%、出席状況と議論への参加が30%、プロゼミ運営への貢献度が10%を目安にして、総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回: イントロダクション 第2回: 研究方法論に関するレクチャー 第3回: 論理的思考に関するレクチャー 第4～15回 グループ研究&発表&議論 (注: 1回分の授業をキャリア支援センターの教員による講演会で置き換える。)			
具体的な進め方は以下の通りである。 ①グループ分けをし、各グループは研究テーマを決めて、共同調査・研究を行う。 ②各グループは研究成果を纏める。 ③パワーポイントを作成して、研究成果を発表する。 ④受講生全員でディスカッション・質疑応答を行う。			
*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。			
*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義前に、研究や発表準備のために、毎週約2時間自習してください。			
教科書・参考書等 講義の際に適宜紹介する。			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 皆さんが積極的に授業にコミットすることを期待します。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 323557) プロゼミナール (朴恩) Pre-Seminar 新聞記事で読む社会・経済 Reading the Society and economy in the newspaper	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abeG	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 E	単位数 2	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	経済学、社会学	
	履修推奨科目	経済学、社会学	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 この授業では、新聞で取り上げられた社会や経済分野の出来事にふれていきます。国内外の主要新聞を中心に、最近の主要テーマを選んで学生みんなが読んできて、そのテーマに関する討論を行います。海外新聞の場合は事前の翻訳作業が必須です。後半はチームを組んでテーマを決め、プレゼンテーションを行います。			
授業の目的 この授業をとおして以下の可能性を考えています。 1. 社会や経済全般への知識習得ができる。 2. コミュニケーション、討論の能力を向上することができる。 3. プレゼンテーション能力を向上することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
社会や経済全般への知識を得ることができます。 自分の意見をまとめ相手を説得するプレゼンテーション能力、さらにさまざまなテーマの討論に参加することで、コミュニケーション能力と理解力を高めることができます。			
成績評価の方法と基準 授業準備20%、授業への参加・態度40%、プレゼンテーション40%。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 基本的には事前に学生たちに対象とする新聞記事を知らせます。学生たちはそれを各自プリントアウトして読むとともに、関連するテーマに関して調べてきます。皆で輪読後、そのテーマに関して討論を行い、レポートを作成してもらいます。これを何度か繰り返し、最終的には個人またはグループにわけてプレゼンテーションを行います。			
授業計画 第1回 自己紹介とガイダンス 第2回～第5回 個別学生による新聞記事輪読と討論 第6回 中間まとめ 第7回～第10回 個別学生による新聞記事輪読と討論 第11回～第14回 チームでのプレゼンテーション 第15回 最終まとめ 注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。			
【自学自習に関するアドバイス】 日ごろ新聞に接することはあまりないと思います。 日本だけでなく、世界の政治、経済、社会に関して日本および海外の主要メディアはどう伝えているのかをみてみましょう。 とにかく、欲張らずに授業準備として対象となった新聞記事だけでも毎日少しずつ読んでみてください。終わるころには社会全般への好奇心がわいてくると思います。これは皆さんの大学生活のなかでさまざまな形で役立つことでしょう。			
教科書・参考書等 関連新聞を事前に指定します（ネットで簡単にとれるものまたは配付）			
オフィスアワー 木曜 2限 研究室3号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語、遅刻、無断欠席など履修マナーを守ってください。 授業では毎回全員に必ず一回以上意見を求めることにしていますので、やる気を出して参加してください。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313527) プロゼミナール (福村) Pre-Seminar プロゼミナール (福村)	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目 策	公共経済学、地域経済学、国際経済学、経済政策	
	履修推奨科目	ミクロ経済学I、マクロ経済学I	
学習時間 授業90分×15回+予習・復習・報告準備などの自学自習			
授業の概要 経済学の応用分野である、交通経済学について様々な理論上の概念や多様なデータについて、受講生同士が互いに協力しながら、教科書の輪読を通じて学習する。我々の日常生活では、通勤・通学・旅行など移動は欠かせないものとなっている。また、普段消費したり利用したりする物資も日常的に輸送されている。そういった人やモノなどの移動を経済学の観点から分析・評価することは、様々な身近な社会問題を理解し解決する上で非常に重要である。そうした中、国や地方自治体は、交通インフラの整備など交通に関連して、様々な政策を企画・立案・推進している。そして、それらの政策は経済学の観点から分析・評価されている。これら交通の経済学を通じた理解や、交通政策立案などの際に必要な経済学の理論モデルやデータを、教科書の輪読を通じて受講者同士が協力しながら学習する。			
授業の目的 この授業を受講することにより、都市や地域に関係する交通政策と関わるうえで必要な基礎的な知識・考え方・データの取り扱い方を、受講生が互いに協力しながら習得することが目的である。(DPの知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
交通経済学に関連して、次の3つの技能を習得することである。まず、様々な経済データを正確に解釈・運用できるようにする。次に、理論的概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できるようにする。以上を踏まえて最後に、現実の様々な問題を解決する方策を考えられるようにすることである。			
成績評価の方法と基準 次の方法を組み合わせて評価する。 議論への参加 (30%)、報告 (50%)、期末レポート(20%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【講義の方法】 以下の授業計画に基づいて教科書の輪読を基本とした授業を行う。なお、計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 この科目は原則全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 以下の授業計画に基づいて教科書の輪読を基本とした授業を行う。なお、計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 1. 授業の概要説明、イントロダクション、担当決め 2. ～14. 担当者による報告 15. 講評・まとめ			
【自学自習について】 担当者は、報告する章を他の受講生と意見交換しながら、報告資料にまとめる。担当者以外の受講生は、その章に事前に目を通しておく。理解を深めるには、社会で今問題になっていることと、それを解決する方策について関心を持つことが重要です。			
教科書・参考書等 「交通経済のエッセンス」(有斐閣ストゥディア)、田邊勝巳(著)、2017年、有斐閣(1800円+税)を輪読する。そのため、教科書の入手が必要である。			
オフィスアワー 毎週火曜日4時間目に、研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 大学でのゼミでの教科書の輪読は、講義とは異なり、受講生の主体性が重要です。漫然と字面だけを追うのではなく、文章が表している意味を自分で考えてみましょう。そして、その理解を他の受講生へ説明してみましょう。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 323536) プロゼミナール (藤村) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	観光およびマーケティング関係科目	
	履修推奨科目	マーケティング論B	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えを見つけ出す知識・方法の習得を中心に行われるが、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、その答えを自ら生み出す能力の習得を中心に行われるべきであると考えている。そのため、このプロゼミナールでは、観光やマーケティングに関するケース分析を通じて、観光やマーケティングにかかわる諸現象に関心を持つとともに、その現象において重要な役割を果たしている要因や解決を必要とする問題を自ら見つけ出し、それを学術的な問いとして設定し、ディスカッションを通じてその解を導き出す方法を習得する。また、ディスカッションによって、自らの考えを他者が理解できるように整理し、効果的かつ効率的に伝えたり、他者の意見を聞き取り、適切に応答できるようなコミュニケーション能力を習得する。			
授業の目的 観光やマーケティングに関するケース分析とディスカッションを通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を導くことができるような問題解決にかかわる基礎能力を習得すること。また、コミュニケーション能力を高め、ディスカッションを展開できる能力を習得すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光やマーケティング問題に関心を持つことができる。 2. 新聞や専門誌の観光事業やマーケティング戦略に関する記事を理解・解説できる。 3. 解決すべき問題を自ら発見し、それを学術的な問いとして設定することができる。			
成績評価の方法と基準 単位認定においては、出席状況 (10%)、レジュメによる報告内容 (30%)、ディスカッション内容 (40%)、およびディスカッション要約 (20%) を考慮する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス <授業計画並びに授業及び学習の方法> 毎回、観光あるいはマーケティングに関するケース・ビデオを視聴し、ケースとして取り上げられた観光地政策や企業のマーケティングの特徴や問題点についてディスカッションを行なう。 具体的には、各講義の担当者 (1名) をあらかじめ決めておき、担当者は「ケースの企業あるいは観光地に関する資料 (レジュメ)」(A4用紙で2枚程度)を作成し、ビデオ視聴前に報告する。さらに、ビデオ視聴後に、そのケースに関するディスカッションをコーディネートするとともに、その内容を記録する。次回の講義時に、そのディスカッション内容を整理・要約した「ディスカッション要約」(A4用紙で1枚程度)を配布する。 第1回 ガイダンスと担当ケースの決定 第2回～15回 ケースの概略報告+ビデオ視聴+問題点等についてディスカッション この科目は、対面方式で講義を行います。ただし、状況によっては、遠隔方式に変更する可能性もあります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第2回～15回 各回のケースに関する資料を探索して、それに関する理解を深めるとともに、関連する重要な概念や理論を調べる。(各回2時間)			
教科書・参考書等 用いるケースは学生と相談して決める。 また、参考書は随時指示する。			
オフィスアワー 火曜日: 12時～15時 水曜日: 13時～18時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各講義日における担当者は「ケースの企業あるいは観光地に関する資料 (レジュメ)」(A4用紙で2枚程度)を作成し、配布するとともに、担当日におけるディスカッション内容を整理・要約した「ディスカッション要約」(A4用紙で1枚程度)を作成し、次の講義日に配布する。 講義には積極的に参加する態度が求められる。無断欠席や報告担当の時に欠席した場合には、単位の認定を行わない。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 333495) プロゼミナール (二ツ山) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目	観光学概論 国際観光論 観光産業論	
	履修推奨科目	観光産業論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業では、観光現象についての事例と理論を学び、これからの観光のあり方について発表・議論を行うことで、観光をめぐる問題について多角的に考察します。 具体的には、ポストモダン以降の観光社会学・観光人類学についてのテキストを輪読し、発表・討議することで、観光現象についての理解を深めます。また、フィールドワークを行うことで、それらの座学から得られた知見を活かし、現場でどのように応用できるかを考えていきます。			
授業の目的 観光現象の事例と理論について基礎的な事項を幅広く学ぶことで、観光について多角的な知識を身に付け、理解を深めること目指します。また、これらの知識・理解を用いて、これからの観光の諸課題を探し、解決探求能力を養うことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1、専門分野の基礎的な研究史を理解し、関連する概念を整理できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2、専門分野についてのプレゼンテーション、レジュメの作成ができる (DPの「言語運用能力」に対応)。 3、発表内容を理解した上でコメント、討論ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 リアクションペーパー30%、討論への参加・内容20%、発表50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は演習形式で、発表と討論を中心に進めていく。 メンバーの個性や興味によってはフィールドワークなども行う可能性もある。			
第1回 ガイダンス・自己紹介 第2回～3回 ミニプレゼン 第4回～8回 テキスト輪読 (テキストはメンバーの興味によって選定) 第9回～10回 フィールドワークとそのまとめ 第11回～第15回 プレゼン・ディスカッション			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくること (4時間) 第2回～3回 ミニプレゼンの発表内容について準備・レジュメの作成をし、発表のリハーサルを行うこと (8時間) 第4回～8回 テキストを読み、その内容の要約と自身の考えをまとめてくること。発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと (20時間) 第9回～10回 授業中に提示された内容でフィールドワークを行い、得られた調査結果をまとめること (8時間) 第11回～第15回 発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと。発表者以外は発表内容についてコメントを考へること (20時間)			
【授業及び学習の方法】 この科目は対面により実施することを基本とします。 なお状況によっては一部遠隔へ変更する可能性があります。 対面か遠隔かで授業内容を変更する場合があります。			
教科書・参考書等 教科書：授業の最初に、輪読のためのテキストを決定します。 参考書：『よくわかる観光社会学』、安村克己・遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人編著、ミネルヴァ書房、2011年、2,600円+税 『観光学ガイドブック』、大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝著、ナカニシヤ出版、2014年、2800円+税			
オフィスアワー 授業終了後に応じます。 研究室を訪問できる時間帯については授業内またはSNSで伝えます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講生によって、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。 授業中の私語、スマホ・ケータイの操作は禁止します。			

ナンバリングコード B4BSN-cadE-30-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 323555) プロゼミナール (古川) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論、商品システム論、商品実験		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。なお、この授業のフィールドについては、鬼無町（香川県高松市）など香川県内外数カ所を取り上げ、その活性化について考えます。			
授業の目的 ①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。 ②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。 ③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。 ④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。 ⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①仲間と協力して積極的に活動できる。 ②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。 ③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。 ④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。 ⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べるができる。			
成績評価の方法と基準 期末テストおよび小テストは行いません。計4回のフィールド調査およびその前後の検討・報告への出席状況により単位を認定します。成績評価については、検討・報告の内容と積極性をみて評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け 第02回：フィールドについて事前調査および報告 第03～04回：第1回フィールド調査（於：各地域 時期：10月） 第05回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第06～07回：第2回フィールド調査（於：各地域 時期：11月） 第08回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09～10回：第3回フィールド調査（於：各地域 時期：12月） 第11回：第3回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第12～13回：第4回フィールド調査（於：各地域 時期：1月） 第14回：第4回フィールド調査の報告 第15回：まとめ なお、この授業はフィールド調査を含むため、授業回数は教室で計7回、各地域で計4回を予定しています。なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。			
【授業方法】 対面で授業を行います。新型コロナウイルスの状況により、変更する場合があります。 フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 (1) 次回の調査と報告に向けて、地域の情報収集と整理。資料作成。 (2時間) (2) 次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間) (3) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 (4時間) (4) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 (4時間) (5) 次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)			

(6) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。	(4時間)
(7) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。	(4時間)
(8) 次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。	(5時間)
(9) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。	(4時間)
(10) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。	(4時間)
(11) 次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。	(5時間)
(12) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。	(4時間)
(13) 調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。	(4時間)
(14) これまでの調査結果をもとに報告資料の作成	(6時間)

* 普段から地域の情報やニュースに興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。
参考書は随時指定します。

オフィスアワー 金曜日3時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各地域での活動は、場合により、土曜日・日曜日に行うことがあります。了承のうえ、受講してください。学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323540) プロゼミナール (松岡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営管理論、現代企業論、経営戦略論、マーケティング論、経営組織論、人的資源管理論A、企業倫理、等	
	履修推奨科目	経営管理論、現代企業論、経営戦略論、マーケティング論、経営組織論、人的資源管理論A、企業倫理、等	
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 この授業では、これまでに学んだ経営学諸領域の理論や知識を用いながら、現実のビジネスを取り巻く諸課題についてゼミナール形式で検討する。今年度は地域企業の事業創造をテーマとしてとりあげる。			
授業の目的 ゼミナール形式での討議を通して、地域企業の事業創造についての理解と洞察を深める。また、グループ単位で課題を設定し、調査と分析を行い、それらについての報告を行う。これらの活動を通して、問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の向上を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経営学の基本的な理論について説明することができる (学士課程のDP「b:知識・理解」に対応) 2. 地域企業が抱える事業創造上の課題とその解決法について、経営学のフレームワークを用いながら、自身の言葉で説明することができる (学士課程のDP「c:問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 専門分野の基礎に関わるレジメないしレポートの作成、初歩的な討論、および、プレゼンテーションができる (学士課程のDP「a:言語運用能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 受講態度、討議への貢献度、課題レポート、調査プロジェクトの進捗状況等に基づいて総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【講義計画】</p> <p>1. イントロダクション 2～8. 報告者によるプレゼンテーションと全体での質疑 9～14. 調査研究の実施と進捗報告 15. まとめ</p> <p>*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行う場合があります。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>【自学自習に関して】</p> <p>テキスト、資料を精読して論点を整理してから出席してください。報告担当者はレジメを作成してください。授業終了後は、授業内容を踏まえた振り返りのレポートを作成してください。後半の調査プロジェクトの開始以降は、適宜、チームメンバーで協議し、データの収集・分析、プレゼン資料の作成にあたってください。おおよその学習時間の目安として、準備学習 30時間 (各回2時間)、事後学習 30時間 (各回2時間)程度を要します。</p>			
教科書・参考書等 山田幸三・忽那憲治 (2016)『地域創生イノベーション—企業家精神で地域の活性化に挑む』中央経済社 (2700円/生協で販売)			
オフィスアワー 火曜日・4限目 なるべく事前に予約してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断遅刻・欠席は厳禁。 事前準備を入念に行い、質の高い討論を行い、有意義なゼミ運営を目指しましょう。 演習活動の一環として、学外での調査活動等を伴う場合があるため、保険 (学研災・学研賠あるいは同等のもの) 加入をしておくことが受講の条件となります。			

ナンバリングコード B4BSN-bceE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323548) プロゼミナール (宮脇) Pre-Seminar 社会と私のフラクタル (自己相似) な 関係	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目		
	履修推奨科目 会計学・経営学関連の授業科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)			
授業の概要 このゼミナールの目標は、個人のコンピテンシー、特に、コミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力を高め、様々な「人間力」を成長させるきっかけ作りをすることです。			
授業の目的 「社会」と「自分自身」をフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーなどを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー (特にコミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力) を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席 (原則: 毎回)、積極的な参加態度 (2)個人のコンピテンシーの向上度			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 〔授業の方法〕 まず、毎回、ストーリーテラーとして、各自の1週間の出来事の中から面白い話をしてもらい、表現力を高めます。次に、香川県をホームとするサッカーチームの「カマタマーレ讃岐」のボランティア活動に参加します。また、ボランティアの経験などをもとに、カマタマーレ讃岐とともに共同企画や提案を考え、それをプレゼンテーションします。最後に、「働く理由」をテーマにグループディスカッションします。 ※全回対面授業です。なお状況によっては、全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
〔授業計画 (予定)〕 (第1週) ガイダンス (第2週) 打ち合わせ会議 (カマタマーレ讃岐の関係者との打ち合わせ会議を体験します) (第3～6週) カマタマーレ讃岐のボランティア活動への参加 (日程調整をして日曜日に2～3回参加します (授業はお休みです)) (第7週～11週) プレゼンテーション (グループ別に企画や提案を考え、プレゼンテーションの準備を行い、実際にカマタマーレ讃岐の関係者・4年生・3年生とともにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を高めます。) (第12～14週) グループディスカッション (4年生・3年生も参加し、グループ別に、ディスカッションでの話し方、進め方などを学び、自己表現力を高めます。) (第15週) 360度ミーティング (私を含め、カマタマーレ讃岐の関係者、4年生・3年生から多角的にアドバイスをを行います。) 〔自主学習に関するアドバイス〕 (第1週) 授業の位置づけをよく理解しましょう。(4時間) (第2週) 事前にカマタマーレ讃岐のHPを見て調べたり、会議ではメモをしっかりとるようにしましょう。(4時間) (第3～6週) よりカマタマーレ讃岐の知識を増やすとともに、ボランティア活動を通して、いろいろな人と協働する体験を楽しみましょう。(16時間) (第7週～11週) グループ別に集まって、調べたり、資料を作成したりするなど、プレゼンテーションの準備をしましょう。(20時間) (第12～14週) テキストとディスカッションイシュー (問題) を配布するので、テキストを読み、ディスカッションイシューに答えられるように準備してきましょう。(12時間) (第15週) 今の自分がどのように見られているかを、しっかりと聞いてみましょう。(4時間)			
教科書・参考書等 随時指定			
オフィスアワー 水曜日15:30～17:00 (会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ まじめに授業や課題に取り組み、仲間と協働作業を行うことができること。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 323569) プロゼミナール (森貞) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 森貞 誠	関連授業科目	調査データ分析Ⅰ、マーケティング	
	履修推奨科目	調査データ分析Ⅰ、マーケティング	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 マーケティングやデータ分析に関する基礎的な知識について、輪読やディスカッション、グループワークなどを通して学習していきます。特に、データ分析をどのように経営やマーケティングに活用できるかについて考えていきます。また、講義の中では、統計ソフトを用いた演習も取り入れる予定です。			
授業の目的 文献の輪読や演習を通して、データ分析のマーケティングへの活用について考えることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・データ分析の知識を用いて、経営学における課題について考えられるようになること (DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応) ・プレゼンテーションスキルを身に着けること (DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応)			
成績評価の方法と基準 受講態度や発表内容などに基づいて、総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2～8回 受講生による発表 第9～第14回 データ分析演習 第15回 まとめ 【講義及び学習の方法】 指定の書籍の内容をまとめ、個人ごとに発表してもらいます。発表内容を踏まえ、受講生でディスカッションをおこない、理解を深めます。また、後半の講義においては、実際にデータの収集や分析をグループごとにおこなう予定です。 【自学自習のアドバイス】 発表に向け、文献の内容を理解しておく。(20時間) ディスカッションに備え、文献の内容を整理する。(20時間) 発表資料を作成し、発表の準備をおこなう。(20時間) ※この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 初回講義時に指示します。			
オフィスアワー 初回講義時に指示します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断遅刻・無断欠席は厳禁です。 グループワークをおこなうため、他の学生と協力して発表をおこなってください。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 323570) プロゼミナール (山口) Pre-Seminar 企業倫理を中心に	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目	企業倫理	
	履修推奨科目	企業倫理	
学習時間 演習90分×15回+ (自主学習70時間)			
授業の概要 このプロゼミでは、3年次以降の研究に必要な輪読、文章作成、グループワーク、議論、発表等の方法を学びます。その際、主として企業倫理をめぐるさまざまな問題をテーマとして取り上げます。とりわけ、企業不祥事の事例研究を深めることで、企業に求められる責任がいかなるものかを考察します。			
授業の目的 企業倫理に関する事例研究を深めるとともに、輪読、グループワーク、議論、発表といった3年次以降の研究に必要な不可欠な「学びの手法」を学ぶことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①企業倫理に関する基礎的な知識を習得できる。 ②基礎的な文章であれば、論点を的確につかむことができる。 ③短い文章であれば、正確に書くことができる。 ④自分の思考を口頭でわかりやすく人に説明できる。 ⑤他者と協力して、共通の課題に取り組むことができる。 ⑥社会問題について、自分で掘り下げて調べることができる。			
※DP (ディプロマ・ポリシー) との対応……上記の到達目標のうち、②③④はDP-a (言語運用能力) に、①⑥はDP-b (知識・理解) に、⑤⑥はDP-c (問題解決・課題探求能力) に対応。			
成績評価の方法と基準 ゼミ参加の姿勢、課題の達成度などから総合的に判断します。無断遅刻・無断欠席あるいは不当な理由での遅刻・欠席をする者には単位を認定しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス 第2回 アイスブレイク、グループ決め 第3・4回 企業倫理に関する知識の共有 (グループ発表) 第5回 事例の持ち寄り (グループワーク) 第6回 事例の発表 1回目 (グループ発表・討論) 第7回 事例の発表 2回目 (グループ発表) 第8回 予備 第9・10回 指定文献の輪読 (グループ発表) 第11・12回 将来について (個人発表) 第13・14回 ゼミ生による自由講義 (グループ発表) 第15回 まとめ			
※基本的には対面での実施を考えています。			
【学習の方法】 提示された課題について、グループと個人、両方のレベルでしっかりと対応してください。(5時間程度)			
教科書・参考書等 初回ガイダンスで説明します。			
オフィスアワー 金曜日14:40～15:30 Zoomで実施します。メールでアポイントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 明るく、楽しく、積極的にゼミに参加してください！ 無断遅刻・無断欠席は厳禁です。やむを得ない事情がある場合には、必ずメールで「事前に」連絡してください。 とくに、正当な理由がない遅刻・欠席によって他のゼミ生に迷惑を掛けることは、絶対にしてはけません。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 313528) プロゼミナール (山ノ内) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期木5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 山ノ内 健太	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 世界全体でも日本でもグローバル化は急速に進んでおり、経済や社会に多大な影響を及ぼしていると考えられる。本講義ではグローバル化に関する文献を輪読し、グローバル化とそれを支える技術進歩が世界経済や我々の生活に及ぼす影響を考えていく。また、パソコンを用いたデータ処理演習を3回程予定しており、各国の経済やグローバル化に関するデータの入手と適切な処理の方法を扱う。なお、輪読する文献は原則として予備知識を必要としないが、経済学(特に国際経済学)の知識があればより理解を深めることができると思われる。データ処理に関しては、統計学の基礎的な知識があればよいが必須ではない。			
授業の目的 本講義はグローバル化に関する文献の輪読を通して、グローバル化と世界経済について考えることを目的とする。より具体的には、グローバル化と世界経済の実態と関係する制度・政策の把握(DPの「知識・理解」に対応)、関連するデータ処理能力の獲得(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)、グローバル化に関して自身の見解を養ってそれを他者に説明できること(DPの「言語運用能力」に対応)の3点を目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と世界経済の動向に関して基礎的な知識を身につける。 ・世界経済に関する統計データにアクセスし、それらを適切に利用できるようになる。 ・グローバル化に関して自身の見解を持ち、それを他者に説明できるようになる。 			
成績評価の方法と基準 成績は発表(質疑応答を含めて40%)、小テスト(40%)、レポート(20%)で評価する。場合によっては授業態度を加味する可能性もある。小テストは毎回行い、テキストの内容に関する記述問題を中心とする予定である。レポートではデータ分析を通して結論を自ら導くことを要求する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回：イントロダクション 第2回：発表資料の作成とプレゼンの方法 第3回：近年の世界経済の概観 第4回：大転換 第5回：第二の大転換 第6回：デジタル技術の衝撃 第7回：遠隔移民 第8回：グローバル化とロボット化による自動化 第9回：グローバル化に関するデータの入手方法 第10回：グローバル化に関するデータの分析方法 第11回：グローバル化とロボット化による破壊的変動 第12回：グローバル化とロボット化が招く反動とシェルトリズム 第13回：グローバル化とロボット化の問題の解決 第14回：世界経済に関するデータの分析方法 第15回：本講義のまとめ			
【授業及び学習の方法】 授業形態は基本的に対面とする。授業では毎回決められた担当者に、輪読する文献の内容を要約し発表してもらう。発表担当者は事前に文献を読み込み、重要なポイントをスライドにまとめること。また、3回程程度のデータ処理演習を予定しており、関連するデータの扱い方を説明する。			
【自学自習のためのアドバイス】 指定テキストには事前に目を通しておくこと。また、講義でデータを扱った場合は、データの入手や加工を自身の手で行って復習することを推奨する。			
教科書・参考書等 リチャード・ボールドウィン著、高遠裕子訳『GLOBOTICS (グロボティクス) グローバル化＋ロボット化がもたらす大激変』、日本経済新聞出版社、2019年、2,200円＋税。			
オフィスアワー 質問などは金曜日5校時に3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義は少人数を想定しており、大教室での講義に比べて受講生の負担がやや重くなることは予め承知しておくこと。意欲のある学生に履修してほしい。			